



カリキュラム・マネジメント

～カリキュラムマネジメント推進会議 還流報告～



○経緯

- ・中教審の平成15年答申および平成20年答申等で「カリキュラム・マネジメント」の重要性が指摘された。
- ・平成28年の中教審答申は「カリキュラム・マネジメントを実現し、学校教育の改善・充実の好循環を生み出していくことを目指す」と提言した。
- ・平成30年の高等学校学習指導要領の改訂で、各学校においてカリキュラム・マネジメントの確立に努めることが規定されている。

○重要性

- ・教育課程は、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を子どもの心身の発達に応じ、授業時間との関連において総合的に組織した学校の教育計画であり、その編成の主体は各学校である。
- ・各学校は、子どもたちの姿や地域の実情等を踏まえて、各学校が設定する教育目標を実現するために、学習指導要領等に基づき、どのような教育課程を編成し、どのようにそれを実施・評価し改善していくのかという「カリキュラム・マネジメント」の確立が求められる。
- ・特に教科横断的な視点から教育活動の改善を行っていくことや、学校全体としての取組を通じて、教科等や学年を越えた組織運営の改善を行っていくことが求められており、各学校が編成する教育課程を核として

どのように教育活動や組織運営などの学校の全体的な在り方を改善していくのが重要なカギとなる。

●カリキュラム・マネジメントの充実を図るための取り組みについて

カリキュラム・マネジメントとは全く新しい取り組みを導入することが目的ではなく、それぞれの学校実態に応じて、既存の取り組みや組織を生かしつつ、その取り組みの質の向上を図っていくことが求められている。カリキュラム・マネジメントの充実には、例えば

- ・学校評価との関連付けを図り、PDCAサイクルを機能させる。
- ・職員会議や学年会、教科主任など既存の関連の会議の場を生かす。
- ・学校運営協議会や学校評議員会、保護者説明会、学校だより等を活用する。

(ポンチ絵参照)



教育再生会議 第十一次提言

「技術の進展に応じた教育の革新、新時代に対応した高等学校改革について」

- 国は、普通科の各高等学校が、教育理念に基づき選択可能な学習の方向性に基づいた類型の枠組みを提示
 - ・キャリアをデザインする力の育成重視
 - ・グローバル活躍するリーダーの素養の育成重視
 - ・サイエンスやテクノロジーの分野等におけるイノベーターとしての素養の育成重視
 - ・地域課題の解決等を通じた探求的な学びの重視

これを受けての【読売新聞記事】です。